

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/1, 2ユニット)

事業所番号	2775801687		
法人名	株式会社 ライフケア森本		
事業所名	グループホーム四季はる		
所在地	大阪市平野区長吉出戸6-14-38		
自己評価作成日	令和5年7月14日	評価結果市町村受理日	令和5年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多くの方々(家族・医療・地域)のご協力をいただき、入居者様が生き生きと楽しく暮らせる生活の場となっています。  
 入居者様の積極的な家事参加、レクリエーション参加、お元気で笑顔が素敵な方が多いのも自慢の「グループホーム四季はる」です。もちろん職員も元気です。  
 家事はだけでなく、行事も入居者と職員の『共働』作業として、みんなが楽しい毎日を過ごせるよう心がけています。  
 みんなが居心地がいいと感じる場所を目標としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は2005年、最寄駅から徒歩8分の便利な立地に2ユニットで開設された。管理者は法人の代表でもあり、在宅介護を利用していた祖父母の応援もあって当事業所を立ち上げた。「人には一人ひとりの個性がある」の理念のもと、利用者一人ひとりのペースを大切に職員一丸となって支援している。毎日のケアで心掛けている事は「1日1回は笑っていただく事」とし、家族からは「ここにきて元気になった」との感謝の声がある。また食事が楽しみな事となるよう工夫を凝らし、日常の食事はもとより、年初のおせち料理、端午の節句、七夕まつりなど職員渾身の手料理がある。医師、看護師との連携も行き届き、日常の健康管理から看取りに至るまで利用者・家族の思いを大切に努力している。利用者の表情は穏やかで、居心地の良い場所であることがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、今日一日楽しく暮らせるようにするためにはどうあるべきかを自問自答しながら実行に向けて努力している	事業所理念を「人には一人ひとりの個性がある」としパンフレット、事業所前の看板に記載している。利用者・家族には入居時に説明している。職員には新人研修での説明や毎月の施設会議で日常ケアを振り返りながら実践に繋げている。特に利用者一人ひとりのペースを大切にすることを心掛け、都度確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ化で中止	地域事情により自治会には入会していないが、地域の情報は区民だよりや近隣の区民センターから得ている。昨秋は管理者の努力が実り、秋祭りの獅子舞の来訪があった。コロナ禍前は保育園のお遊戯会に参加したり、中高生の体験学習の受け入れ等を行っていたので、再開を検討中である。ボランティアによる体操教室は毎週日曜に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の研修会に職員と一緒に参加する キャラバンメイトの一員としても活動する		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在手紙での報告	運営推進会議は地域包括支援センター職員、利用者・家族、地域ボランティア担当者、職員で偶数月に行っていたが、コロナ禍により対面では行わず、メンバーと家族に書面で報告している。昨年12月には対面で開催し、1年間の振り返りを行った。	議事録は簡素化され、報告事項のみとなっている。今後は、行事、ヒヤリハット、研修内容の報告に加え、相互の意見交換や改善策など詳細に記載して、利用者へのサービス向上に役立つ会議となることを期待する。また、民生委員や近隣の同業者等メンバーの拡充も期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導の出席はもちろん、疑問点などは直接担当の方に指導して頂くよう努めている	地域包括支援センター職員は運営推進会議メンバーでもあり事業所運営への理解を得ている。るんるんネット(平野区認知症高齢者支援ネットワーク)主催の講演会や研修会(zoom)にも参加している。コロナ関連の相談事は市の相談窓口で指導を仰いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止のための安全確保は行っているが、できる限り自由に行動ができるように心がけている	「身体拘束適正化の指針」を基に、委員会を3ヶ月ごとに開催している。研修は年2回行い、チェックリストに基づき理解を深めている。安全のため玄関とユニット入口は施錠している。転倒防止のため離床センサーを使用している利用者もいるが、家族には説明し了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、職員同士で意見交換をしながら安全確保に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターとの連携、活用など運営推進会議においても情報提供ができるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	万一の事故が発生した場合の対処法、長期入院の場合の対処法、家族への協力依頼など、場合によっては医療も同席して説明を行う		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が訪問された際は近況報告をするように努めている 医療については主治医より、直接ご家族様に説明していただく	事業所1階入口に意見箱を設けているが、家族からの意見は来訪時に聞いている。面会は予約制であるが、希望があれば居室での面会も受け付けている。利用者の食事内容の希望には出来る限り叶えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の施設会議、運営会議で意見交換を行い、みんなが穏やかに暮らせる場所となるように努力している	職員が意見を述べる機会は毎月の施設会議があるが、職員間のコミュニケーションが良好で風通しの良い環境がある。管理者による個人面談はないが、その都度話すようにしている。資格取得についての受講支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の目標、個々のレベルアップになるよう研修会への参加、昇給、ボーナス支給、処遇改善などに努める		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ化ZOOMでの参加となる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平野区グループホーム連絡会への参加、ネットワーク勉強会への参加、お互いの施設行事への参加交流など、サービス向上に向けて取り組んでいる		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談日より利用者、家族と十分に話し合う機会を設ける ケアプランセンターから現在までの情報収集を行い、信頼関係の構築に努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、家族からの情報収集、ホーム運営方針の説明など、入居者が安心して生活できる場にするための情報交換に努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	場合によっては他施設の情報を提供するなど、本人はもちろん、ご家族様のご要望も大切にします		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、片付け、洗濯干し・たたみ、モップ掛けなど、できる限り職員とともに過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の関係を大切に、入居者の相互の精神的な支えとなるよう行事への参加や面会を大切に、促しを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より面会について家族に説明し気軽に来訪していただくようお願いしている 来訪された方々に対してゆっくり話せる空間の提供や声掛けを行う	利用者の生き立ち、生活歴全般の把握は利用者・家族からの聞き取りやフェイスシートにより行っている。家族の協力が大きく、病院受診から墓参り、外食、お盆に帰る事などがある。友人からの暑中見舞いや妹からの手紙も届き、職員は積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の性格や特性を把握し配慮した上で、よりよい関係作りを支援する		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もできる限りの支援、相談に応じる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と相談させていただき、日常生活の会話・行動などから入居者本位の暮らしを第一に支援するよう努める	利用者の意向・希望は、こまめな声掛けと傾聴を心掛け、思いをくみ取る様にしている。把握した内容は職員ノート、介護記録、業務日誌により共有している。職員が利用者に願い事を書いてと七夕の短冊を渡すと「あんたらが好き」と書かれた。職員の行き届いた日常ケアが感じ取れる事例である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・関係者からできるだけたくさんの情報収集を行い、情報を元により良い支援に繋げる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの職員が記録した「介護記録」「業務日誌」や日々の暮らしぶりから現状把握に努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度、サービス担当者会議を開催し、介護計画の見直し、意見交換を行う 可能な限りカンファには家族にも同席していただく 家族の意向も大切に、入居者本位の介護計画を作る	利用者・家族の要望を基に職員ノート、介護記録、業務日誌、医師・看護師の意見を参考に介護計画を作成している。モニタリング、サービス担当者会議を3ヶ月ごとに開催し、見直している。内容は職員全員が回覧し把握している。家族には計画作成担当から来訪時に説明したり、郵送後、電話により説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、変化、想いを個々に記録し、情報を共有し入居者がより良い生活を送れるような介護計画の見直しに生かす		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化を見逃すことなく、いち早くその時々に応じた可能な限りの対応ができるように、家族・医療・介護が協力している体制を構築する		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前勤務していた職員によるボランティアで毎日曜日14時より体操をおこなう		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望を大切に適切な医療を受診できるように支援する 協力医みどりクリニックは月2回の訪問医療、24時間オンコール体制となっており急な体調不良にも迅速に対応できる	万代池みどりクリニックの訪問診療を月2回受け看護師は毎週1回バイタルサインと健康状態の把握を行い医療と24時間連携している。歯科は週1回希望者(半数)が訪問診療を受け、他科(眼科・循環器科)は家族同行で定期受診している。皮膚科・精神科医師の訪問診療が月1回あり、診察情報や結果は主治医から直接電話で家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、定期的に訪問看護がある 日々の体調報告、ドクターへの連携など、正確な情報伝達に努める		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院提携医療機関には入居されたらすぐに情報提供を行う 退院時は訪問医療への連携がうまくいように情報交換に努める		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族、介護、医療とともに十分に話し合い、方針をともにしながら終末期が迎えられるようチームで支援できるよう努める	入居時に利用者・家族に看取り指針により説明している。状態状況に応じて医師から再度説明を行い家族・利用者の要望に応じて看取りケアの同意書を交わし変更可能である事も説明している。98歳の利用者家族の希望で事業所に交代で泊まり込み、職員と共に家族の想いに沿った看取りケアを実現している。「看取りケア確認シート」を看護師・計画作成担当が毎回記録している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修として年1度、消防署よりAEDの講習を実施する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の指導のもと、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を行う 災害時の対応について検討する 近隣の方々に手紙にて個々に協力依頼をする	消防避難訓練を7月・12月に阿倍野振興協会の指導のもと年2回行っている。備蓄はチェックリストで3日分を完備し緊急連絡網は書面フローチャートと職員グループラインを活用している。近隣住民の見守り等の協力体制を構築し、再度運営推進会議でも呼びかけ、体制を強化したいとしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた対応、声掛けに配慮しながら行う 記録、個人ファイルの個人情報の保管、取り扱いには厳重にする	個人尊重、プライバシー保護や尊厳、接遇に留意して常に接し、接遇研修も行っている。声掛けや対応では排泄介助・入浴・個室の出入り・着換えなどの場面で特に配慮し職員同士での現任教育がされている。個人情報の書類などは鍵つき書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で要望・想いが出やすいような声掛けを心掛け、傾聴する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、希望に沿った支援を大切にする		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外食時にはオシャレを楽しめるよう、洋服選び、化粧の支度を手伝う 2か月に1度の訪問理容・美容を利用する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日3回の食事の準備・片付けなどではできるだけみんなで協力して行う 節分、ひな祭り、クリスマス会など季節の行事はみんなで相談し、メニューのリクエストを聞く 外食を楽しむ	注文配達の食材と職員が買い物をして事業所で調理している。利用者は下膳と洗い物を手伝っている。季節料理、行事食は利用者の意見を聴き、楽しみな笑顔での食事を提供している。豪華なおせち料理で始まり、七夕祭りのそうめんの盛り付けは、人参でかたどった金魚、オクラの星などで雰囲気を出している。おやつレクレーションも行い、外食も状況を見て行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に毎回の食事量を記載する 水分量は一人ひとりの状態に合わせて管理し、体調管理をする 嚥下に問題のある方はとろみをつける、ペースト状にするなどの工夫する		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは一人ひとりの状況に応じて声掛けや環境の工夫・支援する 定期的な訪問歯科の往診、歯科衛生士による専門的な口腔ケアや治療を行う		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の訴えや表情を観察すること、排泄チェック表で排泄リズムを把握することでトイレ誘導を行う	排泄チェック表を参考にし、殆ど声掛けしている。自立で布パンツ使用2名、おむつ4名 リハビリパンツとパット併用の利用者5名である。脱水や便秘予防として、お茶・ポカリスエット・紅茶などを適時飲用している。夜間の巡回は2時間毎であるが、個別に応じ安眠を重視し、睡眠状況に合わせての排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送りや排泄チェック表にて排泄状況を把握する 毎日の体操、レクリエーションにて運動を日課とし、十分な水分摂取を促す 頑固な便秘は医師と対応策を検討する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入居者のペースに合わせて入浴を楽しめるようにする 入浴剤を使用し温泉気分を楽しむ	基本週2回の入浴日であるが、汚染時や外出時などで追加している。入浴を嫌がる利用者はいない。入浴剤は事業所で準備している。牛乳石鹸がお気に入りです。自宅から持参している利用者もいる。入浴介助や見守り支援を行いながら世間話や気持ちなどを聴く良い機会になっている。しょうぶ湯・ゆず湯を行い利用者は季節感を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やレクリエーションを通じて、良眠に繋げる 一人ひとりの体調や状態に合わせて日中も静養臥床する時間を確保し、身体の負担軽減に努める		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の管理のもと、お薬手帳の管理、服薬支援を行う 服薬変更があれば申し送り及び業務日誌へ記載し、誤薬のないように周知する 服薬チェックシートも作成する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し入居者一人ひとりのできること、得意なことを大切にしながら役割や楽しみにつながるよう支援する		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など希望があればできる限り職員が付き添う 家族様にご協力いただき、近隣への散歩・外食などを楽しみ	日常的な外気浴・日光浴はベランダや玄関前の花壇(桜と百日紅の樹木)など見に出ている。感染状況を考慮して、最近は家族同伴の買い物、外出も行っている。近隣の区民センターに職員2人で車椅子の利用者2人と歩ける利用者1人で外出している。コロナ禍前は、奈良の笠木温泉に皆で小旅行に行っていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は家族と相談し、現金を所持されている 買い物には同行するが支払いは入居者ができるよう支援する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は事務所の電話を利用することができる ご自身で近況報告のはがきを書く 手紙などは職員が預かり、投函する		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア(共同空間)はゆったりしていて、採光がよく、季節に応じた装飾、入居者が作った作品などを飾っている	リビングルームは広く小上がりの畳スペースがありテレビ・ピアノ・ソファなど設置されている。ガラス窓は広く明るい。コーナーに中庭があり、デッキでお茶タイムのスペースがある。季節の花や花木が植えられ季節を常感することができる。アルコール消毒・拭き掃除、エアコン、換気に留意して職員はマスク・手洗いなど、利用者はパルスオキシメーター測定して感染予防対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	解放感のある和室、テーブル席、ソファなど、一人で過ごしたり、気の合う者同士で思い思いに過ごすことができるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持参していただき、自宅での生活とかけ離れないように家族にも協力していただく 今までの生活空間を作るよう努める	エアコン・防炎カーテン・ベッド・広いクローゼット・洗面台が設備され、自宅からなじみの品や写真、小物、筆筒、テレビ、化粧台、仏壇、カレンダーなど持参し自分好みに配置している。フローリングにカーペットを敷き座るスペースを作ってレイアウトしている利用者もあり、医師の指示で在宅酸素利用者も穏やかに過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員見守りの中で一人ひとりの状態に応じた自立支援に向けて取り組みを行う		